



与謝野町 雇用就農→独立就農
水稻栽培 浪江泰成さん 2016年3月卒業

実践的な学びと人との絆が経営を支える力に

農業が日頃から身近にあり、将来の仕事を考えたときに農業をやろうと思いました。農業をやるなら、農業の基礎を学ぶ必要があると考え、農業大学校への入学を決めました。

農業大学校で得た最大の財産は、人とのつながりです。同級生とは卒業後も交流が続き、栽培技術や経営の課題について相談できる大切な仲間になっています。また、先生方とも卒業後も続く関係を築くことができ、就農後も的確な助言をいただいています。

学びの面では、肥料計算や病虫害防除、土づくりなど農業経営に欠かせない基礎知識を体系的に身に付けることができました。特に実習時間が多く、現場で経験を積みながら学べたことは大きな強みです。

農大マルシェでは、生産だけでなく販売や消費者との対話も経験でき、農業経営に必要な視点を養うことができました。

技術・知識・人脈のすべてが、現在の経営を支える大きな財産になっています。

先輩や仲間との出会いが就農への不安を解消

卒業後に就職した有限会社あつぷるふぁーむとは在学前からつながりがあったため、就職活動で特別な支援を受けたわけではありません。しかし、在学中には卒業生が学校を訪れ、実際の就農経験や農業経営について話を聞く機会がありました。就農後の生活や経営の現実を知ることができたことで、農業を仕事にするイメージが具体的になり、不安を和らげることができました。農業には魅力だけでなく苦労もありますが、先輩方の経験談を聞くことで覚悟を持って就農に踏み出せたと思います。

独立後は町役場や府の農業改良普及センターにも支援いただきましたが、学生時代から築いた人とのつながりが現在も支えになっています。農業大学校は技術だけでなく、人脈づくりの場でもあったと感じています。

経験を重ねて独立し着実に経営規模を拡大

農業大学校卒業後は、在学中からつながりのあった有限会社あつぷるふぁーむへ就職しました。そこで3年間、水稻栽培を中心に実践的な技術や農業経営について学びました。もともと将来的には独立して自分の経営を持ちたいという思いがあり、経験を積みながらその時期を考えていました。そんな中、親戚から農地と農業機械を譲ってもらえる話をいただき、独立就農を決意しました。現在は水稻 13.5ha を経営しながら、タマネギやサツマイモ、ジャガイモ、加工用キャベツなどの野菜栽培にも取り組んでいます。水稻は JA 出荷だけでなく直接販売も行い、野菜は主に直売所へ出荷しています。経営規模は少しずつ拡大しており、現在も毎年面積が増えています。

お客様とのつながりを力に地域農業へ貢献

農業の一番の魅力は、自分で作物を育てる喜びと、その作物を食べてもらえることです。また、経営面積の拡大やお客様が増えることにも大きなやりがいを感じています。以前は JA への出荷が中心でしたが、自分で販売するようになってからは、お客様に直接届ける責任感が生まれました。その経験を通じて、農業者としてだけでなく経営者としても成長できたと感じています。

一方で、経営面積が毎年増加しているため、作業計画や人手の確保には苦労しています。限られた時間の中で水稻と野菜栽培を両立できるよう工夫を続けています。また、地域の農家組合や JA 部会、消防団などの活動にも積極的に参加しています。

今後は地域農業を支える若い後継者や仲間づくりにも力を入れていきたいと考えています。

農業人生を支える知識と人脈を築ける環境

農業大学校は、農業を仕事にしたい人にとって知識や技術を身に付けることができる学びの場です。私自身、普通科高校の出身でしたが、農業大学校で基礎からしっかり学ぶことができました。特に魅力だと感じるのは、人とのつながりができることです。同級生や先輩、先生方とのネットワークは卒業後も続き、困ったときに相談できる大切な財産になります。農業は一人で取り組む仕事と思われがちですが、多くの人との関わりの中で成り立っています。農業大学校では、技術だけでなくそうした仲間づくりもできます。将来農業に携わりたいと考えている人は、ぜひ積極的に学び、様々な人と交流してほしいと思います。その経験が将来の大きな力になるはずです。